

1) 研究課題名： 前立腺癌における病理学的予後因子の解析

2) 研究目的と意義：

前立腺癌は比較的経過が長いとされていますが、一方で男性の死因として米国では2位 日本でも増加傾向にあり男性では死因の6位(2009年)まで上昇しています。このような状況のなか、顕微鏡上ある特定の因子をもつ患者さんでは、再発および癌死までの期間が通常の前立腺癌より早い可能性が指摘されており、このことを多くの患者さんの前立腺生検標本および摘出標本から得られる顕微鏡所見および診療録から得られるデータから明らかにすることで、今後の治療戦略に役立てることが本研究の趣旨です。

3) 研究方法：

1. 現在までに手術をうけていただいた患者さんの生検または手術時に採取した摘出標本(組織の一部)を、再度、顕微鏡的に観察し再評価を行います。患者さんの、現在の再発の有無などと照らし合わせ、予後不良な因子がないかを明らかにします。

2. 研究解析に必要なデータを診療録から提供していただきます。提供をお願いするデータは患者背景(年齢、性別など)、画像所見、血液検査所見(PSA・テストステロン値など)治療内容及び結果：手術所見(手術内容)などです。

3. 1の再評価の結果と2の臨床データを比較・検討・解析します。

3) 研究機関：名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科

4) 問い合わせ・苦情の受付先

○問い合わせ先

名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科 助教 加藤真史

(電話 052-744-2985 、ファックス 052-744-2319)

○苦情の受付先

名古屋大学医学部総務課：(052-744-1901)